

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 西ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-9		
自己評価作成日	令和4年 8月5日	評価結果市町村受理日	令和4年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2295400077-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年 8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染により、地域交流やご家族との交流が減っている中で、利用者様が寂しさを感じず、過ごせる様に工夫をしていき、いつもそばで寄り添い「あかり」の様な存在になる様、心掛けています。又、コロナ感染状況によりが家族が不安を感じない様に定期的に携帯動画や、ホームページ等で情報を発信していきより安心感を持ってもらい信頼関係を築けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりが自らあかりとなって輝き、すべての人が自分らしく暮らせる地域づくりを目指して開設に至り、9周年を迎えた事業所です。フロアの穏やかな空気は変わらずそのままですが、管理者の交替もあり、2ユニット2名リーダーから1名の指導者を置くことに体制をかえ、情報が一元化して更に風通しが向上しています。代表者がFM島田のラジオ番組に隔週ゲスト出演のうえ介護のお話をする機会も加わるとともに事業所HPも好評で、家族の理解も得やすく、またウイズコロナとして面会の代わりにズームで家族とお話する時間もつくられ、安寧の日々に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員入社時に文書にて伝え共有している。 又、日々の業務の中での、振り返りを図っている。 ・指導職員を通じ日々伝える努力をしている。	「一人ひとりの暮らしを支え、私たちの住みよい地域づくりに貢献すること」を旨とした倫理綱領も策定のうえ、ケアサービスのプロとしての自覚を入職段階から求めてオリエンテーションと研修をおこない、浸透につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。 ・ホームページ、掲示板などで施設のイベントのお知らせをしたり、近所の商店へ買い物などを日常的に行っている。	代表者がこの地域に生れ育ち馴染みの関係基盤は十分なものの、最近ではFM島田のラジオ番組に隔週ゲスト出演のうえ介護保険のことや介護の現場エピソードを話す機会もあり、ネットワークが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。 ・介護相談には常に応じている。 ・他グループホーム事業所の職員の見学や、意見交換なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご家族、地域自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行うように努めている。 ・連携して下さる医師、歯科医師があり、毎回の出席で提案や意見を頂き参考にしていく。	運営推進会議には歯科医師もメンバーとなっていて、集まれば豊富な話材で話に花が咲いて有意義な時間となりますが、近年はコロナの状況に左右されて、書面開催の場合となることが増えています。	参会できない場合は、返信シートを封入して双方向の意見交換となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者とは折々に出向いたりTEL,FAXでの連絡、相談を行っている。 運営推進会議への参加。介護相談員の訪問等受けています。 ・ここ数年のコロナ禍の中で情報の共有、薬品物品の支給等感染時の対応の指導等、都度連携しています。	此処2年ほどで市役所や地域包括支援センターからの紹介は1例です。利用者本人がもともと「あかり」を知っていて入所希望はあったケースですが、島田市の介護支援専門員が担当していた人が入所しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束しない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。 ・言葉による拘束について、特にゼロを目指す。 ・定期的に研修で確認している。	3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を開催しています。自己点検シートのチェックをおこなうとともに、現場で起こっている事例での検討も成されています。議事録に「新人への教育について再度話し合った」とあり、安心な態勢にあることが視えます。	職員には委員会の内容を伝えてはいますが、「周知徹底する」方法について、検討の余地があります。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修を通じて学ぶ機会をつくり、知識向上、レベルアップに努めている。 ・ヒヤリハット報告は積極的に行い未然に防ぐようにしている。 職員との面談を通じてストレスチェックを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・「成年後見人制度」の研修等で更に、理解を深める事が必要。 後見人への報告を折々に行い、本人の希望や現況を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時にわかりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。 ・家族カンファ時にも、不明点などを聞き、都度説明を行っている。 ・重要事項変更の折は全ての家族に説明をし署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議開き、全員のご家族にお知らせしご意見を伺うようにしている。 ・一年に一回家族へのアンケートを実施し、意見の把握に努めている。	毎年家族アンケートをおこなっていて、本年度分は現在集集中です。主に面会については不満はあるのは当然なもの、「今は我慢します」「HPで笑顔が見れて安心です」と前向き、建設的な意見が大半です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(施設長、管理者) ・ユニット会議 ・個別面談 ・カンファレンス ・スタッフ懇親会等活用 上記他、個人的に意見を聞いている。	幹部会議ともいえる「代表者会議」と各フロア毎の「ユニット会議」を通じて毎月情報を共有しています。面談は年2回あり、職員は実施前に会社への要望や目標について洗い出し、意見を整理して臨むことで実りある時間としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・税理士、社労士の関与による助言等により適切な整備を図るように努めている。 ・適切な内部規定を作成し整備するように図っている。 ・年2回の面談を実施し、職員の意見を聞く等、コミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修や必要とされる外部研修に参加してもらっている。 ・定期的な面談や、個別の相談に柔軟に応じ、希望に添うように努めている。 ・指導者を配置し、ケア方法等を職員に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。 ・他施設の職員の訪問があり、お互いの良いサービスを取り入れる取り組みをしている。 *コロナ感染状況により実績は少なくなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に早く慣れていただく為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係に務めている。 ・一日も早くなじみの関係となれるように、職員が個別な寄り添い、声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。 ・急変時事故発生時のご家族への連絡方法について確認し、ご家族の安心につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅とのケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得るようにしている。(事前面談、書面) ・本人、ご家族との面談を丁寧に聞き取り、又ケアマネの情報と合わせ、十分なアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活者としての視点で、その方の食事作りや洗濯等と一緒に行う事で、共同生活の一員として過ごしてもらうように工夫している。 ・一日の早くなじみの関係になれるように、常に寄り添うケアに務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人様と家族様の間にあるものを理解しながら、体調不良時や受信時に、家族と連絡を密に取っている。 ・ご家族と主治医との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ユニット同士の利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしたりしている。 ・昔の地域の産業(木材)の写真、かつての大井川の写真などを飾り話題づくりに寄与している。	編み物が得意な人が複数名いましたが、現状ほとんどできなくなっています。「これが」と続けているものはありませんが、食が一番の楽しみであるため、通常の献立のほかに鮭の糍漬けや豆の佃煮などご飯のおともを準備して、食欲増進を図っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士のコミュニケーションの為に、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。 ・体操や歌、イベントなどに参加し、楽しく過ごすよう誘っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や移転先への情報提供を行い支援している。 ・亡くなられたご家族の通夜、葬儀に伺い、共にお見送りさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ユニット会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 ・個別ケアとしての外出を主としている。 ・利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所に来ることが多い。 ・事務所を含め本人の用事	バリデーションやユマニチュードを所内研修で取組み、一人ひとりの思いや希望、意向把握の一助としています。知識が知恵になるためには実体験が大切なため、ベテランがやってみせることで新人の習得を深めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・できるだけ細かな聞き取りでアセスメントを行うことで把握に努めている。 ・家族、知人の面会時などには聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。 ・有する力の維持と改善についてカンファレンス等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員一人一人からの利用者様の問題点、課題点を指導者よりあげてユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画書を作成し、内容を共有している。	介護計画書は更新などの手順を遵守したうえで、適切に作成されています。「転倒したくない」というニーズに「動きたい気持ちを大事に介助する」という利用者ファーストの目標が入っていることに安堵を覚えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常に申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。 ・業務ノートなどの活用もしている。 ・現場からの情報を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出、工作、行事、編み物、習字などの工夫をしている。 ・体操、マッサージ、足浴などで浮腫や筋力低下の予防などの個別ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・作業療法士の受け入れ、潤いのある生活を 目指している。 ・コロナで回数は減っているが、ピアノや楽器 の演奏などのセラピーを受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・看護師2名非常勤で配属している。 ・島田市の医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。 ・基本は家族受診だが、事情によって受診の代行は行っている。	全員が在宅の頃からの医師による受診を継続しており、基本は家族による通院介助であるため、車いす専用車(N-BOX)の貸し出しも始めています。医師とは「連絡票」を通じて医療情報を共有していて、医師も返信コメントに協力くださっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置の指導を得られる体制を作っている。 ・医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供票を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。 ・受信時には連絡票を用いて連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し家族、施設、医療が協力して行っている。 ・看取り時期は、「一人にしない、させない」を基本にし、ご家族にもご本人の傍にいてもらい泊まり込みで協力してもらっている。	2名(内1名は交替要員)の看護師が利用者の健康管理をおこなっていて、看取りのときはそれぞれ異なる主治医と連携を図っています。ここ2年看取りはありませんが、コロナの初期の頃は2例あり、人数制限しつつ家族とともに「一人にしない」ないを実践しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染委員、防災委員が主となり、応急手当マニュアル作りを行い、いつでも対応できるようにしている。 ・施設長、管理者、看護師には、時間外でも連絡がとれ、指示を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。 ・同じ訓練の中にも、改善点等を一つ一つクリアできている。 ・新たに、風水害対策マニュアル、津波被害対策マニュアルの作成も検討している。	全体研修では防災委員会を中心に水害が取り上げられる予定で、「風水害対策マニュアル」の準備も進められています。また非常時にも役立つような連絡用LINEが開通されたり、事業所の井戸水が有事には地域に開放される取り決めが自治会とあたりなどのトピックスもあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の生活履歴を把握し、適切な言葉掛けを行っている(方言も含む) ・そのかたのNGワードなど検索して、日々を穏やかに過ごせるように努めている 	ヒヤリハットは多いときは10件程あり、「お尻をついた」といった「怪我まではいかない事故」についても厳密に挙げて、大きな事故の発生確率を押さえています。一方でスピーチロックによる行動抑制は無くしたいと、代表者が繰り返し注意喚起をおこなっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず、本人の希望、または選択できる様聞いてから実施している。 ・本人からの希望も、職員に伝わりやすい様になっている。 ・本人の気持ち、考えを尊重するよう心掛けている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・施設としてではなく、常に寄り添う人としてその方に合わせている。 ・常に、その方の希望に添っている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・生活場面に合わせて、一緒に服選びを行っている。 ・起床時の整容、又都度に身だしなみを整えている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の好みを知り、その方にあつた味付けや形態を工夫している。 ・野菜の皮むき、盛り付け、食器拭きなどを手伝ってもらっている。 ・イベントでは普段より豪華な食事を計画したり、おやつレクでは、職員と一緒に作ったりしている。 	本年度、グループホーム協会の月刊誌には当事業所の段重ねのおせち料理が掲載され、その力を鼓舞しています。調理専任者1名いて、アイデアが豊富なことが背景にあり、お皿の種類があり、彩りもきれいで食事が潤沢です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体重増加のある方には量を減らしたり、空腹の訴えをする方には、少し量を多めに行っている。 ・水分摂取では、活動後や折々に提供をしている。 ・苦手なものや、アレルギーがある場合は代替品を提供している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後には必ず口腔ケアを行い、自分では行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。 ・年に一度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設で行っている。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。 ・失敗のない方は紙パンツから布パンツに移行してパットをやめるなどする。 	<p>平均介護度3、車いすが必要な人が6名、4名がベッド上の交換となっていますが、できるだけ気持ちよく過ごしてもらいたいとして、業者の講習を受けるとともに尿量を計るなどして適切なパットや大きさを確認しています。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日30分の体操を行っている。(呼吸法等) ・水分摂取をこまめに行っている。 ・下腹部の不快感があった場合は温タオルをあて、暖和するよう工夫している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状態や要望に合わせて、声掛けをしてシャワー浴、入浴を行っている。 ・就寝前には、水虫予防の方、冷え対策として、足浴を行っている。 ・基本的には週2回だが必要な場合と本人の希望等で週3回以上行っている。 	<p>お風呂は週2、3回を目安に、浴槽の湯は3名を1回として順次掛け流しで使用しています。陰部洗浄を毎日おこない清潔を保ち、一番風呂の人は浴剤を3種類から選んでもいます。富士山が十八番という人もいますが、大抵は職員が時節に合った曲を誘導しています。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食後は休息の時間を設けている。 ・活動後は疲れた様子がある時は休息して頂いている。 ・個々に応じた時間に就寝しえ頂いている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の間違いが無い様に、内服時間別に仕切りを使って薬箱の保管、内服時は、本人用カップにセットして2重確認をしている。 ・下剤は便の状態により調整している。 ・薬の処方内容をまとめたファイルを個別に作っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の出来る事、得意な事等を役割りとして毎日行ってもらっている。 ・ゴミ箱づくり、新聞たため、雑巾縫い、窓閉め等々 ・おさけの提供もしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 ・家族が本人の希望を把握して外出こともしている。 ・職員と一緒にスーパー等へ買い物に行く活動はコロナの感染状況により現在は中止している。 	<p>降りないドライブ、散歩しながらお花見が中心です。コロナ禍で外出はままなりません、いざそのときのためにも月2回来訪の作業療法士の体操に動いています。また月のイベントは今まで以上に内容を手厚くして、外出支援の分を室内活動で満喫しています。</p>	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やパン屋の訪問販売等には、個人のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・届いた手紙は、本人に渡し、読めない場合はこちらで読むことがある。 ・個々に宛先書きを代筆したり、手紙を出す機会をもうけている。 ・ズームyzスマホを利用して家族様との会話ができる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って、清潔で明るい空間で過ごして頂くように心掛けている。 ・季節がわかるよう、季節の壁紙作りや季節の花を飾ったりしている。 ・季節によって日光浴を行っている。	コロナ対策として週1回の抗原検査、事務職員のフロア訪問を減らす、体温測定・手指消毒の徹底などをおこない衛生を担保しています。そのため以前は事務所を遊び場としていた利用者も行けず少し寂しい日々ですが、今は我慢の時として皆で協力しあっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・活動室がデイサービスの場とはなったが、自由にデイへ出かけたり、エントランスホーム、事務所施設全体を自由に行き来している。 但し、コロナの感染状況により現在は休止している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家で使用していたダンスや椅子、家族の写真を置いたりして、安心してすごして頂いている。 ・表札は自ら手書きして、飾り付けをしている。	足のふらつきなど心配点は絶えないため、動線とつかまり場所の確保は常に検討しており、気になる人は訪室確認も増やすほか、ベッドを布団に替えた人もいます。安全対策以外では、コロナで会えないため、家族が届けてくれた写真が増えた人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設けたり、トイレ使用时には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図るようにしている。 ・壁にとりつけた手すりを使うことにより、居室を移動しやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 東ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-9		
自己評価作成日	令和4年 8月5日	評価結果市町村受理日	令和4年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyogyoCd=2295400077-00&serviceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年 8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染により、地域交流やご家族との交流が減っている中で、利用者様が寂しさを感じず、過ごせる様に工夫をしていき、いつもそばで寄り添い「あかり」の様な存在になる様、心掛けています。又、コロナ感染状況によりが家族が不安を感じない様に定期的に携帯動画や、ホームページ等で情報を発信していきより安心感を持ってもらい信頼関係を築けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりが自らあかりとなって輝き、すべての人が自分らしく暮らせる地域づくりを目指して開設に至り、9周年を迎えた事業所です。フロアの穏やかな空気は変わらずそのままですが、管理者の交替もあり、2ユニット2名リーダーから1名の指導者を置くことに体制をかえ、情報が一元化して更に風通しが向上しています。代表者がFM島田のラジオ番組に隔週ゲスト出演のうえ介護のお話をする機会も加わるとともに事業所HPも好評で、家族の理解も得やすく、またウイズコロナとして面会の代わりにズームで家族とお話する時間もつくられ、安寧の日々に結ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員入社時に文書にて伝え共有している。 又、日々の業務の中での、振り返りを図っている。 ・指導職員を通じ日々伝える努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。 ・ホームページ、掲示板などで施設のイベントのお知らせをしたり、近所の商店へ買い物などを日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。 ・介護相談には常に応じている。 ・他グループホーム事業所の職員の見学や、意見交換なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご家族、地域自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行うように努めている。 ・連携して下さる医師、歯科医師があり、毎回の出席で提案や意見を頂き参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者とは折々に出向いたりTEL,FAXでの連絡、相談を行っている。 運営推進会議への参加。介護相談員の訪問等受けています。 ・ここ数年のコロナ禍の中で情報の共有、薬品物品の支給等感染時の対応の指導等、都度連携を密に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束しない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。 ・言葉による拘束について、特にゼロを目指す。 ・定期的に研修で確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修を通じて学ぶ機会をつくり、知識向上、レベルアップに努めている。 ・ヒヤリハット報告は積極的に行い未然に防ぐようにしている。 職員との面談を通じてストレスチェックを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・「成年後見人制度」の研修等で更に、理解を深める事が必要。 後見人への報告を折々に行い、本人の希望や現況を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時にわかりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。 ・家族カンファ時にも、不明点などを聞き、都度説明を行っている。 ・重要事項変更の折は全ての家族に説明をし署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議開き、全員のご家族にお知らせしご意見を伺いようとしている。 ・一年に一回家族へのアンケートを実施し、意見の把握に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(施設長、管理者) ・ユニット会議 ・個別面談 ・カンファレンス ・スタッフ懇親会等活用 上記他、個人的に意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・税理士、社労士の関与による助言等により適切な整備を図るように努めている。 ・適切な内部規定を作成し整備するように図っている。 ・年2回の面談を実施し、職員の意見を聞く等、コミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修や必要とされる外部研修に参加してもらっている。 ・定期的な面談や、個別の相談に柔軟に応じ、希望に添うように努めている。 ・指導者を配置し、ケア方法等を職員に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。 ・他施設の職員の訪問があり、お互いの良いサービスを取り入れる取り組みをしている。 *コロナ感染状況により実績は少なくなっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に早く慣れていただく為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係に務めている。 ・一日も早くなじみの関係となれるように、職員が個別な寄り添い、声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。 ・急変時事故発生時のご家族への連絡方法について確認し、ご家族の安心につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅とのケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得ようとしている。(事前面談、書面) ・本人、ご家族との面談を丁寧に聞き取り、又ケアマネの情報と合わせ、十分なアセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活者としての視点で、その方の食事作りや洗濯等と一緒に行う事で、共同生活の一員として過ごしてもらうように工夫している。 ・一日の早くなじみの関係になれるように、常に寄り添うケアに務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人様と家族様の間にあるものを理解しながら、体調不良時や受信時に、家族と連絡を密に取っている。 ・ご家族と主治医との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ユニット同士の利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしたりしている。 ・昔の地域の産業(木材)の写真、かつての大井川の写真などを飾り話題づくりに寄与している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・入居者同士のコミュニケーションの為に、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。 ・体操や歌、イベントなどに参加し、楽しく過ごすよう誘っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や移転先への情報提供を行い支援している。 ・亡くなられたご家族の通夜、葬儀に伺い、共にお見送りさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ユニット会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 ・個別ケアとしての外出を主としている。 ・利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所に来ることが多い。 ・事務所を含め本人の用事		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・できるだけ細かな聞き取りでアセスメントを行うことで把握に努めている。 ・家族、知人の面会時などには聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。 ・有する力の維持と改善についてカンファレンス等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員一人一人からの利用者様の問題点、課題点を指導者よりあげてユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画書を作成し、内容を共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常に申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。 ・業務ノートなどの活用もしている。 ・現場からの情報を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外出、工作、行事、編み物、習字などの工夫をしている。 ・体操、マッサージ、足浴などで浮腫や筋力低下の予防などの個別ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・作業療法士の受け入れ、潤いのある生活を 目指している。 ・コロナで回数は減っているが、ピアノや楽器 の演奏などのセラピーを受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・看護師2名非常勤で配属している。 ・島田市の医療機関との関係も連絡票を用 いて連携を図っている。 ・基本は家族受診だが、事情によって受診の 代行は行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置 の指導を得られる体制を作っている。 ・医療機関との関係も連絡票を用いて連携を 図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供票を用いて、病院のMSW を通じて支援できるようにしている。 ・受信時には連絡票を用いて連絡を取ってい る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し家族、施設、医療が協力して行っている。 ・看取り時期は、「一人にしない、させない」を基本にし、ご家族にもご本人の傍にいてもらい泊まり込みで協力してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染委員、防災委員が主となり、応急手当マニュアル作りを行い、いつでも対応できるようにしている。 ・施設長、管理者、看護師には、時間外でも連絡がとれ、指示を受けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。 ・同じ訓練の中にも、改善点等を一つ一つクリアできている。 ・新たに、風水害対策マニュアル、津波被害対策マニュアルの作成も検討している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・その方の生活履歴を把握し、適切な言葉掛けを行っている(方言も含む) そのかたのNGワードなど検索して、日々を穏やかに過ごせるように努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・必ず、本人の希望、または選択できる様聞いてから実施している。 ・本人からの希望も、職員に伝わりやすい様にしている。 ・本人の気持ち、考えを尊重するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・施設としてではなく、常に寄り添う人としてその方に合わせている。 ・常に、その方の希望に添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・生活場面に合わせて、一緒に服選びを行っている。 ・起床時の整容、又都度に身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の好みを知り、その方にあった味付けや形態を工夫している。 ・野菜の皮むき、盛り付け、食器拭きなどを手伝ってもらっている。 ・イベントでは普段より豪華な食事を計画したり、おやつレクでは、職員と一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・体重増加のある方には量を減らしたり、空腹の訴えをする方には、少し量を多めにして いる。 ・水分摂取では、活動後や折々に提供をしている。 ・苦手なものや、アレルギーがある場合は代替品を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後には必ず口腔ケアを行い、自分では行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。 ・年に一度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。 ・失敗のない方は紙パンツから布パンツに移行してパットをやめるなどする。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日30分の体操を行っている。(呼吸法等) ・水分摂取をこまめに行っている。 ・下腹部の不快感があった場合は温タオルをあて、暖和するよう工夫している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状態や要望に合わせて、声掛けをしてシャワー浴、入浴を行っている。 ・就寝前には、水虫予防の方、冷え対策として、足浴を行っている。 ・基本的には週2回だが必要な場合と本人の希望等で週3回以上行っている。 		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・食後は休息の時間を設けている。 ・活動後は疲れた様子がある時は休息して頂いている。 ・個々に応じた時間に就寝しえ頂いている。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の間違いが無い様に、内服時間別に仕切りを使って薬箱の保管、内服時は、本人用カップにセットして2重確認をしている。 ・下剤は便の状態により調整している。 ・薬の処方内容をまとめたファイルを個別に作っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その方の出来る事、得意な事等を役割りとして毎日行ってもらっている。 ・ゴミ箱づくり、新聞たたみ、雑巾縫い、窓閉め等々 ・おさけの提供もしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 ・家族が本人の希望を把握して外出こともしている。 ・職員と一緒にスーパー等へ買い物に行く活動はコロナの感染状況により現在は中止している。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出やパン屋の訪問販売等には、個人のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・届いた手紙は、本人に渡し、読めない場合はこちらで読むことがある。 ・個々に宛先書きを代筆したり、手紙を出す機会をもうけている。 ・ズームyzスマホを利用して家族様との会話ができる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って、清潔で明るい空間で過ごして頂くように心掛けている。 ・季節がわかるよう、季節の壁紙作りや季節の花を飾ったりしている。 ・季節によって日光浴を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・活動室がデイサービスの場とはなったが、自由にデイへ出かけたり、エントランスホーム、事務所施設全体を自由に行き来している。 但し、コロナの感染状況により現在は休止している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家で使用していたダンスや椅子、家族の写真を置いたりして、安心してすごして頂いている。 ・表札は自ら手書きして、飾り付けをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設けたり、トイレ使用时には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図るようにしている。 ・壁にとりつけた手すりを使うことにより、居室を移動しやすくしている。		